

# 第6回福祉用具専門相談員研究大会 介護人材不足を補う福祉用具サービスの役割

## 口述発表① 介護人材不足を補う福祉用具サービス

6月10日(木)に東京・護国寺ヒューリックホール(分館)で開催された第6回福祉用具専門相談員研究大会。この大会では、介護人材不足を補うための福祉用具サービスの役割について、各分野の専門家から口述発表が行われ、福祉用具が介護現場にどのような役割を果たしているのか、また、今後の課題や展望について、活発な議論が交わされた。

本特集では、小野木孝二大会長の基調講演に加え、講演者へのインタビューを掲載する。

**「寝たきり」利用者の生活を变えたりフト**

ヤマシタ 花香愛さん、畑谷泰我さん

「寝たきり」の利用者の生活を变えたりフト。これは、介護現場における重要な課題の一つである。本講演では、この課題を解決するための福祉用具サービスの役割について、ヤマシタ 花香愛さんと畑谷泰我さんが講演した。

畑谷さんは、介護現場で「寝たきり」の利用者が増えている現状を憂い、福祉用具を活用して、利用者の生活を变えたりフトしたいと考えている。具体的には、ベッドの改良や、移動支援機器の導入など、様々な福祉用具を活用している。

ヤマシタさんは、福祉用具を活用することで、利用者の生活の質を向上させ、介護現場の負担を軽減している。また、福祉用具を活用することで、利用者の自立を促し、介護現場の効率性を向上させている。

## 小野木孝二大会長 (日本福祉用具供給協会 理事長)

**スキルを高め、福祉用具 サービスで人材不足を補う**

小野木孝二 会長

福祉用具は、介護現場において、介護人材不足を補うための重要な役割を果たしている。本講演では、福祉用具の活用による介護現場の効率化や、介護人材のスキル向上について、小野木孝二会長が講演した。

小野木会長は、福祉用具を活用することで、介護現場の負担を軽減し、介護人材の働きやすさを向上させている。また、福祉用具を活用することで、利用者の生活を向上させ、介護現場の効率性を向上させている。

「寝たきり」の利用者の生活を变えたりフト。これは、介護現場における重要な課題の一つである。本講演では、この課題を解決するための福祉用具サービスの役割について、ヤマシタ 花香愛さんと畑谷泰我さんが講演した。

畑谷さんは、介護現場で「寝たきり」の利用者が増えている現状を憂い、福祉用具を活用して、利用者の生活を变えたりフトしたいと考えている。具体的には、ベッドの改良や、移動支援機器の導入など、様々な福祉用具を活用している。

ヤマシタさんは、福祉用具を活用することで、利用者の生活の質を向上させ、介護現場の負担を軽減している。また、福祉用具を活用することで、利用者の自立を促し、介護現場の効率性を向上させている。

## 口述発表④ 地域・多職種連携・利用安全の取組

地域・多職種連携・利用安全の取組。これは、福祉用具サービスの提供において重要な課題の一つである。本講演では、この課題を解決するための取組について、東海福祉用具センターの代表者が講演した。

東海福祉用具センターの代表者は、地域・多職種連携の重要性を強調し、福祉用具サービスの提供において、地域住民、介護施設、福祉用具メーカーなど、様々な関係者との連携が不可欠であると述べた。

また、利用安全の取組についても、福祉用具の適切な使用や、利用者の安全確保について、具体的な取組について述べた。

**選択制導入後の利用 実態と課題を調査**

東海福祉用具センター 代表者

選択制導入後の利用実態と課題を調査。これは、福祉用具サービスの提供において重要な課題の一つである。本講演では、この課題を解決するための取組について、東海福祉用具センターの代表者が講演した。

東海福祉用具センターの代表者は、選択制導入後の利用実態を調査し、課題を抽出した。具体的には、利用者のニーズの多様化や、福祉用具の多岐にわたる種類など、様々な課題を抽出した。

また、これらの課題を解決するための取組についても、具体的な取組について述べた。

## 口述発表③ 福祉用具メーカーとの連携・協働

福祉用具メーカーとの連携・協働。これは、福祉用具サービスの提供において重要な課題の一つである。本講演では、この課題を解決するための取組について、宮本康平さんが講演した。

宮本康平さんは、福祉用具メーカーとの連携・協働の重要性を強調し、福祉用具サービスの提供において、福祉用具メーカーとの連携が不可欠であると述べた。

また、福祉用具メーカーとの連携・協働の具体的な取組についても、具体的な取組について述べた。

**モニタリングに生成AI 記録時間半減**

宮本康平さん

モニタリングに生成AIを活用し、記録時間を半減させた。これは、福祉用具サービスの提供において重要な課題の一つである。本講演では、この課題を解決するための取組について、宮本康平さんが講演した。

宮本康平さんは、生成AIを活用することで、モニタリングの記録時間を半減させた。具体的には、生成AIを活用することで、モニタリングの記録作業を自動化し、記録時間を半減させた。

また、生成AIを活用することで、モニタリングの精度を向上させ、福祉用具サービスの提供の効率性を向上させている。

**開催概要**

**日程**  
2025年6月19日(木)

**会場**  
護国寺ヒューリックホール(東京都港区東区院 草場1-22-16) ※オンライン併用

**大会テーマ**  
介護人材不足を補う福祉用具サービスの役割～福祉用具の能力を最大限引き出す相談員のスキルアップ～

**主催**  
第6回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

**主なプログラム**

- ◆全日テーマでの口述発表・シンポジウム
- ◆特別講演「誰も排除しない『まぜこぜの社会』と福祉用具～日々の気づきと支え合いのかたち～」(東ちづる氏・俳優、Get in touch 代表)
- ◆ランチョンセミナー1「在宅介護における姿勢の重要性とその影響について」(田代大祐氏・神戸学院大学総合リハビリテーション学部長、協賛=シーホネンス)
- ◆ランチョンセミナー2「介護テクノロジーの動向と社会福祉法人善光会の取り組み」(善本隆史・善光会執行役員、協賛=パラマウントヘルスケア総合研究所)
- ◆企業出展ブース(アロン化成、イーストアイ、シーホネンス、タイカ、タマツ、日進医療器、日本福祉車輦協会、パナソニックエイジフリー、プラッツ、フランスパッド)

## 口述発表⑤ 経験3年未満相談員の福祉用具導入事例

経験3年未満相談員の福祉用具導入事例。これは、福祉用具サービスの提供において重要な課題の一つである。本講演では、この課題を解決するための取組について、菅原孝生さんが講演した。

菅原孝生さんは、経験3年未満の相談員の福祉用具導入事例について、具体的な取組について述べた。

また、経験3年未満の相談員の福祉用具導入の重要性についても、具体的な取組について述べた。

**利用者との目線揃える 効果の見える化**

菅原孝生さん

利用者との目線揃える。効果の見える化。これは、福祉用具サービスの提供において重要な課題の一つである。本講演では、この課題を解決するための取組について、菅原孝生さんが講演した。

菅原孝生さんは、利用者との目線揃えることで、効果の見える化を実現した。具体的には、利用者との目線揃えることで、福祉用具の活用による効果を確認し、効果の見える化を実現した。

また、効果の見える化の重要性についても、具体的な取組について述べた。